

インドネシア研究懇話会(カパル)  
第3回研究大会/オンライン開催大会  
2021年12月19日(日)

# 運営委員会報告

(含む「運営委員会報告2020/11/29」以降の2020年度状況)

加藤 剛

カパル共同代表・責任者

# カパルの組織的特徴

- ① 非学会のカパルは会則・会員・年会費・会員総会等の制度に立脚しない。
- ② したがって、会員投票により選ばれた理事会が運営する形をとれない/とらない。
- ③ カパルは、広い意味でのインドネシアとインドネシア研究に関心を持つ者の緩い同好会的な集まりである。
- ④ 参加の機会は開かれており、カパルML(メイリングリスト)への登録により誰でも参加可能。登録削除も自由。
- ⑤ 緩い集まりにもかかわらず/緩い集まりであればこそ、多数のML登録メンバーを得、大会も盛会;2021年12月16日現在、カパルML登録402名、今大会参加登録161名。
- ⑥ 当初から2つの柱(1年1回の研究大会の開催+ブログ/ウェブサイトを紹介しての情報発信)からなる定期的活動の推進を標榜。
- ⑦ 多数のメンバーを対象にした⑥の実現には推進主体が必要⇒運営委員会。
- ⑧ 会則はないが、⑥の実現には運営委員会に関する決まりが必要。
- ⑨ この3年半、運営委員会に関する慣習的決まりの蓄積と運営の透明性を高めるべく心掛けてきた。大会での運営委員会報告と報告のウェブ公表はその一環である。
- ⑩ にもかかわらず会則に依拠する学会を念頭におく人は、カパル運営委員会の在り方や運営方法に違和感を覚えるかもしれない。
- ⑪ 学会でないカパルをいかに運営するかは、他に例のない挑戦だと位置付けている。
- ⑫ カパルはいまだ成長過程にあり、運営委員会の在り方も次々期(2024~25年度)運営委員会の頃にはより定まったものになると考えている。

運営委員会報告の前に

2021年度

運営委員会体制について

以下では全て敬称略

# [再編]カパル第2回研究大会(2020年11月29日) 運営委員会報告における頭出し関連箇所

- 2021年度の運営委員会体制については、来年3月までに現運営委員会の会議をオンラインで開催し、それまでに加藤から現委員会メンバーに次期運営委員候補の提出を求める。
- 提出された候補者のリストをもとに、必要に応じて各担当責任者と相談の上、加藤と倉沢が次期運営委員会の構成案を作成し、上記オンライン会議に提出して協議、決定する。
- 加藤と倉沢は2021年度末をもってカパル代表を退く意向を示しており、その意味で次期運営委員会は新代表の人選を検討する重要な役割を担う。

2021年度の運営委員の選出は、上記3点を基本的な考え方として実施した。

注記: 強調の度合いは、緑、青、黒字の順。以下のスライドでも同じ。

# 2021年度運営委員選任方式の検討

○加藤が原案を作成、これを基に倉沢と相談の上、2021年度運営委員選任方式(案)を作成。

- 運営委員会に諮る前に、上記選任方式(案)について、分野担当責任者6名の意見を聞き、必要な修正を施した方がよいと考え、インフォーマルながら2共同代表+6担当責任者の会合を設けることにし、「8者会合」と命名。
- 2021年度運営委員選任方式(案)(以後、「選任方式」(案))をメールにて「8者会合」に送付(2021年1月23日)、意見を求める。
- 修正「選任方式」(案)をメールにて運営委員会に送付(2月1日)、意見を求める。

○「8者会合」(1月30日)と「運営委員会」(2月13日)で合意ないし了承された「選任方式」の骨子と2021年度運営委員会構成(案)の作成手続き:

- (1) グーグルFormにより2020年度運営委員が次期委員候補を推薦。
  - (2) グーグルFormは加藤が作成・送付;返信者(委員候補推薦者)が誰かを特定できないフォーム設定にした上で加藤が集計する。
  - (3) 2021年度運営委員会構成(案)の作成手続き
- ⇒(1)の実施形態と(2)の結果については次のスライド、(3)はスライド7参照。

# 2021年度運営委員による次期運営委員 候補の推薦とその結果

## (1) グーグルFormによる次期運営委員候補推薦の実施

### ①実施にあたっての留意点

- ・ 最大5名推薦/1運営委員;最低1人は現運営委員以外の人を含む。
- ・ 推薦は他薦以外に現運営委員の自薦を阻まない。
- ・ 推薦に当たって望まれる配慮:
  - + 多様性:世代、ジェンダー、所属組織(所在地、大きくは東日本と西日本)、専門ディシプリン、インドネシア内研究・関心対象地域(大きくは島)など;全てに配慮はできないがなるべく多様性を考える。
  - + 次期代表候補になり得る人が含まれるような人選への配慮。

### ②推薦実施期間:2021年2月14日~24日

## (2) グーグルFormによる推薦集計結果

- ・ 2020年度運営委員22名のうち15名から推薦あり。
- ・ 推薦された候補は計45人(延べ推薦数70)、うち現運営委員16人(サバティカルなどの理由で事前の被推薦辞退あり)、現運営委員以外29人。

# 2021年度運営委員会構成(案)の作成手続き

グーグルForm結果集計後の手続き:

- ① 推薦された計45人から成る委員候補「元リスト」(推薦数/各委員候補の情報を含む)を加藤が作成し、「元リスト」の中から加藤・倉沢が次期運営委員会構成(案)を作成。
- ② 加藤・倉沢による次期委員会構成(案)作成時の留意事項:
  - ◆ 推薦数情報を含む「元リスト」の管理⇒加藤・倉沢のみで共有。
  - ◆ 推薦数順位に基づく構成(案)作成は非現実的(下記2つの「・」を参照)。
    - ・ 理由は、候補者の年齢等により運営委員会内の役割が限定されたり特殊技能が必要とされる役割があり、推薦数上位者の特別視は困難。
    - ・ 構成(案)は、役割分担・責任者の張り付けを含めて検討する必要。
    - ・ 以上のことから、推薦数が「格段」と多い事例以外は、構成員候補の選任において推薦数に関する情報は考慮しない。
    - ・ (案)作成時には必要に応じ現運営委員会6担当責任者と相談する。
    - ・ (案)作成時の配慮として、委員会構成が多様性、次期代表候補になり得る人、新旧委員の「適度な新陳代謝」を反映するように努める。

# 2021年度運営委員会の立ち上げまで

- ①「8者会合」メンバーに加藤・倉沢作成・次期運営委員会構成(案)を説明文とともにメールで事前送付。
- ②2021年3月19日、オンライン「8者会合」。この席では候補リスト(推薦数情報抜き)を共有;運営委員会に提出する構成(案)の最終案の作成。
- ③2020年度運営委員に次期運営委員会構成(案)を事前送付。
- ④2021年3月29日、オンライン「運営委員会」会議。構成(案)の承認。
- ⑤この会議以前に、各担当分野の新責任者からは、その任に就くことについて事前に加藤が内諾を得た。運営委員会後に接触して辞退されると、構成(案)を最初から検討し直す必要が生じ得るため。
- ⑥承認された次期運営委員会構成(案)に基づき、加藤から次期運営委員候補に連絡、委員就任についての意思の確認。
- ⑦就任を辞退する委員候補がいる場合は、加藤・倉沢が相談の上、候補リストから新たに候補を選び当該者に意思確認を行う。
- ⑧2021年4月4日、現在の運営委員会体制の確定・発足、2020年度運営委員会にその旨をメールで報告(委員会構成については次スライド)。

# 2021年度運営委員会体制

2021年4月4日発足(所属は発足当時)

代表 総務 会計	* 加藤剛(京都大名誉教授)、倉沢愛子(慶応大名誉教授) * 菅原由美(大阪大)、中野真備(京大院) 新井健一郎(亜細亜大)、* 合地幸子(東洋大)、中谷潤子(大阪 産大)、中村昇平(PD金沢大)、間瀬朋子(南山大)
大会プログラム 担当	小池誠(桃山学院大)、* 佐藤百合(アジ研)、中谷文美(岡山大)、 長津一史(東洋大)、福武慎太郎(上智大)、増原綾子(亜細亜大)、 森田良成(桃山学院大)
大会実行担当	津田浩司(東大)、* 林田秀樹(同志社大)、伏木香織(大正大)、 本名純(立命館大)、山口元樹(京大)
情報担当	* 金子正徳(摂南大)、貞好康志(神大)、島上宗子(愛媛大)、 野中葉(慶大)、森下明子(立命館大)
ウェブサイト担当 監事	* 高地薫(神田外大)、野中葉(情報担当と兼任) 大橋厚子(名大)、押川典昭(大東大名誉教授)

\* : 各担当の責任者。

選任方法: 本運営委員会報告スライド5~8を参照。

・後述のように、この体制のもとでの会議は5月9日にオンラインで開催した。

・運営委員会メンバー総数(含む監事)は2020年度の22名から29名に増員;理由は次スライド参照。

# 2020年度と21年度の運営委員会体制の違い

以下は、運営委員選任方式の検討・決定に先立ち、2021年2月1日の運営委員会MLにおいて加藤から提案・了承された内容と、2021年度運営委員会立ち上げまでに検討し導入した主たる変更を指す。

- ①ウェブサイトの「リンク」にある「インドネシア・デジタルゲートウェイ」を「投稿・情報欄」に移し、その管理に責任を持つ委員をおき、同時に「インタビュー:先達・先輩と語る」の担当者をおく。情報担当委員の数を3名から5名に増やし、カパル情報発信のさらなる充実化を図る。
- ②「デジタルゲートウェイ」担当委員は「ウェブサイト担当」委員を兼務し、「投稿・情報欄」関係エッセイなどのウェブ掲載を担当する。当該委員にはウェブ関係のノウハウが求められる。
- ③「大会会場担当」となっていた名称を「大会実行担当」に改め、大会会場の用意・運営だけでなく、大会がオンライン開催ないしハイブリッド開催となった場合には、これに対応する担当であることを明確にする。これに伴い、担当委員の数を2名から5名に増やす。
- ④「大会プログラム担当」委員の数を6名から7名に増員する。
- ⑤会計監査のために2名の監事をおく。監事は運営委員会への出席等を通し、必要に応じてカパルの組織運営全般について助言を行う。
- ⑥最終的に2021年度は新規、女性委員が増え、50代以上が多くなった。

# 体制移行期における2021年度運営委員会の位置づけ

以下は、2021年度の運営委員選任方式の検討に連動して加藤から提案され、3月19日のオンライン「8者会合」で了解、3月29日のオンライン「運営委員会」会議で了承された内容。

- ①2022年度の代表交代時には、責任の中心がより明確なように「代表・副代表」体制にする。任期は2022～23年度の2年度。
- ②代表・副代表は「過去十現運営委員」から選ばれることを想定。
- ③2021年度の運営委員(含む監事)の任期は、加藤・倉沢を除き、上記の代表・副代表の任期に合わせ、原則、2022～23年度の2年度をも含むものとする(2021年度委員には就任要請時にこの点を説明した)。
- ④上記③は、代表交代後に組織運営に支障が生じないように、カパル運営実務経験者が多く運営委員会に残ることが望ましいとの判断による。
- ⑤上記③は、新体制移行期に伴う特別措置とする。
- ⑥上記③にもかかわらず、2022年度委員に欠員が出た場合は、新代表・副代表が、関係分野の担当責任者と相談の上、2021年度用「委員候補リスト」を参考に補充委員の人選を行う。任期は2023年度末まで。
- ⑦2024年度からの運営委員会構成員の任期は1期2年度とする。
- ⑧運営委員の再任は可能。連続しての重任回数の制限は今後検討。16

# 運営委員会報告

(含む「運営委員会報告2020/11/29」以降これまでの状況)

# 報告内容

- 運営委員会等会議一覧
- 2020年度「運営委員会」オンライン会議(2021年3月29日)主要検討事項
- 2021年度運営委員会オンライン会議(2021/5/9)主要検討事項
- 2021年度オンライン責任者会議(2021/5/18)主要検討事項
- 担当委員会からの報告
- 次期代表・副代表選考方法について
- 第4回研究大会(2022年)について

- 
- 会計報告:合地幸子・会計担当責任者(運営委員会報告に続いて報告)  
\* 2021年度の会計決算報告は2022年のカパル研究大会時に行う。

# 「運営委員会報告2020/11/29」以降の 運営委員会等会議一覧

○2021年3月19日、オンライン「8者会合」(2共同代表+6担当責任者)

○2021年3月29日、2020年度「運営委員会」オンライン会議

---

○2021年5月9日、2021年度「運営委員会」オンライン会議

○2021年5月18日、2021年度オンライン「責任者会議」

上記「8者会合」をフォーマルに位置づけて「責任者会議」と命名。

この会議での最重要検討事項は、5月9日に検討された第3回研究大会の開催形態(オンライン開催とするか)についてで、最終決定は「責任者会議」で行うとされた。2020年度のオンライン大会開催に深く関わった担当者にも参加してもらうことにし、会議には長津、津田も参加した。

◆会議ではないがメールならびにグーグルFormにより行った2021年度の重要検討事項に、**次期代表・副代表の選考方式**に関する意見聴取があった。これについては後に報告する。

追記: 上記以外に、運営委員会、責任者会議、大会プログラム担当、大会実行担当、情報担当、会計担当は、それぞれのMLにより連絡・協議し、意思疎通や検討事項についての決定を図った。  
なお、カパルML・カパルML登録等受付と共に、各分野担当のMLの管理者は菅原。

# レビュー:オンライン開催[再編]第2回研究大会

次スライドとも関係することから、オンライン開催のレビューを簡単に纏めておく。

◆大会開催後、運営委員、発表者、司会、司会補佐にコメントを求め、計22人から返事を得た。内容は「オンライン大会コメント集約」に纏め運営委員に送付。

◆「コメント集約」では、コメント結果を「オンライン大会とその運営について」「チャットの経験」「課題ないし今後への提言」に分類して纏めている。

◆「集約」から幾つかコメントを紹介する:

- プログラム委員やオンライン大会実行Task Forceの周到な準備のお蔭で、事前アナウンスから懇親会まで大きなトラブルなく非常に円滑に進んだと思う。
- チャットの利点として、学部生や大学院生でも質問でき、質問の敷居が低くなる。実際に出席したセッションでは対面開催より質問の数が多かった。
- オンラインは一人ずつしか話ができない。発表者＝質問者のやりとりはできるが、オンサイト(対面)のように参加者＝参加者の交流は難しいと思った。

◆ウェブの昨年度大会の「大会見聞記」(含む「弾丸プレゼン」)も参照のこと。

◆事前登録は228名だが、無料だったため「消極的」登録者が多数おり、一度もログインしなかった人、頻繁に会場を出入りした人が多かったとの印象。

◆Pass Marketでのカンパは好反応を得てオンライン開催用人件費は確保。

◆なお今回から、大会プログラム担当企画シンポに登壇するカパルML登録者外のスピーカについては、旅費込みの謝礼をお渡しする方針を決定した。

# 2020年度「運営委員会」オンライン会議(2021年3月29日)

## 主要検討事項

### 2021年度運営委員会構成(案)作成と当該委員会立ち上げに関わる事項以外

#### ①第3回研究大会について:

◆場所は同志社大学今出川キャンパスないし新町キャンパス;開催日は11月末ないし12月中旬の週末2日間。

◆開催方式は基本的に対面方式。

◆[再編]第2回研究大会オンライン開催に対する反応がよく、対面開催でもオンラインやチャットを組み込んだハイブリッド開催を推す意見が多く出た。決定は次期運営委員会の決定事項とし、ハイブリットにした場合の要検討点を次期運営委員会に伝える。

◆弾丸プレゼンの評判は発表者を含む大会参加者の間でよく、第3回大会での継続実施を次期委員会に推奨する。

#### ②ウェブ・ページ右端欄の「懇話会の性格と目的」とその変更について:

◆学会ではないカパルには会の性格や目的を規定する会則がない。代わりにウェブに「性格と目的」があるが、長い文章で記憶に残りにくい。

◆加藤から、これを短い「カパルのビジョン」とその内容を説明する「目的と活動」に分け、表現も「8者会合」の提案を取り込んだ案が提案され、了承された。

#### ③カパル組織運営についての意見交換など:

追記:京大CSEAS所長の依頼により、同研究所の国際共同利用・共同研究拠点形成の継続申請に関し1月7日付で推薦状を作成し、カパル印章も作成。

# 参 考

## ○「懇話会の性格と目的」

インドネシア研究懇話会は会員制をとらないオープンな集まりとし、特定の専門分野や国境のうちに閉じこもることなく、広い意味でのインドネシア研究の発展を図り、参加者相互の協力ならびに親睦を促進することを目的とします。この目的を達成するために、研究大会を開催し、懇話会のウェブサイトやメーリングリストなどを通じて情報の発信を行ないます。

---

## ○「カパルのビジョン」

インドネシアと関わりを持つ人のための開かれた研究・交流・情報プラットフォームの創出

## ○「理念と活動」

カパール(インドネシア研究懇話会)は会員制をとらないオープンな集まりとし、特定の専門分野や国境のうちに閉じこもることなく、広い意味でのインドネシア研究の発展とインドネシア理解の促進を図り、参加者相互の交流と親睦の深化に寄与することを目的とします。この目的を達成するために、研究大会などを開催し、カパールのウェブサイトやメーリングリストを通じて情報の発信と交換を行ないます。

# 2021年度運営委員会オンライン会議(2021/5/9)主要検討事項

## I 報告・確認事項

- 1 21年度運営委員選任方式の説明(2021/3/29運営委員会議事録抜粋は事前送付)。
- 2 運営委員会内6分野担当の役割の概要と今年度の日程など。
- 3 第3回研究大会について: 開催場所、開催時期などの確認。

## II 検討事項

### 1 カパル運営委員会「責任者会議」の設置について

- ・運営委員増員を受け、加藤より運営委員会会議前の議題整理や不測の事態に迅速に対応できるように「責任者会議」(2代表+6担当責任者)設置の提案。
- ・運営委員会がカパルの最高意思決定機関であることの確認;幾つかの条件つき(責任者会議が独自に決定する必要があった時は必ず事後承認を求める等)で承認。

### 2 第3回研究大会の開催方式について

- ・対面開催、状況によりハイブリッド開催、変異株を考えオンライン開催のうち、多くはオンライン開催を支持。これを踏まえ参加費問題等、責任者会議で決定。

### 3 第3回研究大会プログラムについて:シンポジウム企画提案の要請など。

### 4 その他: 昨年末作成のカパル印章の管理は会計担当責任者。

# 2021年度オンライン責任者会議(2021/5/18) 主要検討事項

## 1 研究大会の開催方式について

- ・ハイブリッド開催も議論されたが、運営委員会の意見の趨勢を踏まえてオンライン開催に決定。オンライン懇親会も開催する。

## 2 研究大会開催日と広報について

- ・会場確保の必要性がなくなり、開催日は関連学会の動向を勘案して12月18・19日。
- ・研究大会案内をカパルウェブ、カパルML、東南アジア学会MLに流す。

## 3 オンライン開催における参加費の扱い

- ・昨年は元々対面開催で広報したものを途中でオンライン開催にしたゆえ、参加費は徴収せず。大会運営の費用(主に人件費)は幸いカンパで賄うことができた。
- ・今回は最初からオンライン開催での広報。学会費収入のないカパルが参加費を徴収することは参加者の理解を得られるとの判断で、参加費徴収を決定。
- ・学生と一般に分けるか等について議論の後、参加費は大会運営費に見合う額から推して一律1000円とし、昨年同様Pass Marketによる徴収を検討する。

## 4 その他

- ・カパルならびに運営委員会関係の文書を一括保管・管理するために長津がDropBoxを作成。まだ未整理であるが、代表や運営委員の交代に伴う文書管理の必要性を確認し、Google Driveへの移行を含め今後の検討事項とした。
- ・次期代表等選考方法についてなにか意見があれば加藤に知らせて欲しい。

注記: 昨年大会オンライン開催に深く関わった長津、津田にも会議への出席を要請した。

# 担当委員会からの報告

## 総務

・カパルMLは営利目的が中心の広告文的情報は受け付けない。ただし文化イベント・講演会等で参加費が必要なものについては、関心のある人が詳細を確認できるような形でMLに流すこととする。

## 会計

・昨年度の大会でカンパを募るに際してPass Marketを利用した。今回これが使えないことが判明し、参加費、カンパともにLivePocket ticket を使用する。

## 大会プログラム担当

・第3回大会のシンポジウムを決定。

・プログラム担当委員が発表申請することの可否について: 応募は可能、ただし申請した委員は当該案件の審議から外れることとする。

## 大会プログラム担当

・オンライン開催用マニュアルの改訂、司会補佐のリクルート、発表者・司会者・司会補佐への連絡と大会前のZoomテスト、参加者への連絡など、全て順調に進行。

## 情報担当委員会

・「大会見聞記」「先達・先輩と語る」「カバル・アンギン」「カパルの本棚」の情報発信。

・上記4つのコーナーに関するウェブ上の説明文を修正。

・現在「インドネシア・デジタルゲートウェイ」を大幅改定中で年度末のアップを予定。

## ウェブサイト担当

・ウェブサイトの「変更履歴」をみてもらえば分かるように、新型コロナウイルスの感染拡大下でも、ウェブへのアップは活発な1年だった。

# 次期代表・副代表選考方法について

代表・副代表の選考を研究大会後に進めるにあたり現在のところ次のようなステップで進行中。

- 1 加藤が原案を考え、倉沢と相談の上、選考方法(案)を4つに絞る。
- 2 これをもとに、**グーグルForm**で質問票を作成、回答者が特定できない形でこれを設定し、①4案それぞれについてのコメントを求め、②代案があればその提案を、そして③4案のうちどの案を支持するかを尋ねた。
- 3 **実施時期**:2021年11月27～12月5日、期日の間違いが判明、12月12日まで延長。
- 4 回答者は加藤・倉沢を除く27運営委員、うち回答は26名。
- 5 各案へのコメントのまとめと4案に対する支持者の割合を一覧にし、12月13日に全運営委員に送付。
- 6 コメントを読み追加のコメントがあれば、上記と同様設定のグーグルFormにて追加のコメントを寄せてくれることを依頼。
- 7 上記グーグルFormは研究大会終了後に送付予定。
- 8 **今後の予定**:
  - ①新グーグルForm回答の取り纏めを来年1月初旬に行い纏めを運営委員会に送付。
  - ②1月中旬に責任者会議開催。4案の議論と責任者会議としての選択を諮る。結論が出れば当該案の実施方法の詰めを検討し、これらを運営委員会に提案。
  - ③1月下旬・2月上旬に運営委員会会議、責任者会議の結論を審議。
  - ④上記③で責任者会議の結論が承認されれば2月下旬・3月上旬までに代表・副代表選考を実施。
  - ⑤3月下旬に2001年度運営委員会開催、新代表・副代表承認。
  - ⑥3月下旬・4月上旬までに新運営委員会(多くは現運営委員が継続しよう)の成立。

# 第4回研究大会(2022年)について

- 次回は関東、おそらく東京になる。
- 開催校は未定。
- 次期運営委員会では第4回研究大会の大会実行担当責任者、すなわち会場責任者が決まっている必要がある。
- したがって、開催校は遅くとも来年4月上旬、場合によってはより早期に決定していよう。
- 開催の時期は11月か12月の可能性が高い。
- 開催地が決定し次第、カパルウェブ、カパルML、東南アジア学会MLで広報する。

これと次のスライドは研究大会閉会挨拶で加藤が用いたものの一部。

# カパル3年半の歩み

- 2018年6月初旬～中旬:「インドネシア研究懇話会」設立世話人会結成。
- 2018年7月22日:東南アジア学会MLを通してインドネシア研究懇話会設立と第1回研究大会案内を発信;ML(8月中旬完成)とブログの準備。
- 2018年9月中旬:略称に決定した「カパル」のブログ立ち上げ;第1回研究大会発表募集開始(カパルML、カパルブログ、東南アジア学会MLにて広報)。
- 2018年12月16日:第1回研究大会開催(於:京大稲盛会館);参加者146名;カパルML登録メンバー298名。他方、運営体制は世話人会7名、協力者8名での出発だった。第1回大会後、運営委員会体制が13名で発足。
- 2019年10月12, 13日:第2回研究大会(於:東洋大白山キャンパス);台風19号東京接近のため中止;20年3月28, 29日に第2回大会を再設定。
- 新型コロナ感染拡大に鑑み、上記再設定研究大会(於:東洋大)中止。
- 2020年11月28, 29日、[再編]第2回研究大会開催予定(於:東洋大);
- 新型コロナ収束せず、上記[再編]第2回研究大会をオンライン開催(+オンライン懇親会開催);Zoom登録(無料)228名;カパルML登録メンバー369名。
- 2021年12月18, 19日、第3回研究大会開催を計画(於:同志社大学)。
- 新型コロナ変異株拡大の見通しを考慮し、上記第3回研究大会をオンライン開催に決定(+オンライン懇親会開催);大会参加申込者(参加費あり)161名;カパルML登録メンバー402名。

# 過去3年半のカパル運営委員・運営協力者一覧

最初の順調な滑り出しのあと、その後には台風や新型コロナ等の試練がありました。そのさなかでも、下記38名の方が世話人会メンバー、運営委員、運営協力者としてカパルの運営を支えてくれました。心からお礼を申し上げ、今後とものご協力をお願いします。

運営委員の増員や担当委員の役割分担を明確にするなど、これからはカパルの運営形態も徐々に整い、より多くの方に運営に参加していただける体制になると思います。委員リクルートの網をいかに広げるかが課題となります。

研究大会参加者、カパルML登録メンバーの方を含めて、これまでのご支援、ご協力に対して厚くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

新井健一郎；太田淳；大橋厚子；岡本正明；押川典昭；  
小野林太郎；鏡味治也；金子正徳；北村由美；工藤裕子；  
小池誠；小泉佑介；高地薫；合地幸子；笹岡正俊；佐藤百合；  
貞好康志；島上宗子；菅原由美；Suryomenggolo, Jafar；  
津田浩司；中谷文美；中谷潤子；長津一史；中野真備；  
中村昇平；野中葉；林田秀樹；本名純；福武慎太郎；  
伏木香織；増原綾子；間瀬朋子；見市建；森下明子；  
森田良成；山口裕子；山口元樹

このバティック画の作者・賀集由美子さんが新型コロナウイルス感染により本年6月29日にチルボンで急逝されました。画の使用を無償で提供いただいた賀集さんのご厚意にあらためて感謝し、ご冥福を祈るとともに、このバティック画は、賀集さんがカパルに遺してくれた大事な作品として今後も大切にしていきたいと思ひます。

これからもカパルをよろしくお願ひします。  
次回は（おそらく）東京でお会ひしましょう。